

◎令和3年度 入学式式辞 中学

春の香りが満ちあふれ、命あるものすべてが躍動する春爛漫の今日の佳き日に、國學院大學栃木学園理事長 川福基之先生をはじめ、父母会会長 学園本部の方々のご臨席を賜り、第26回國學院大學栃木中学校入学式を挙げていただけますことは、私共にとって大きな喜びであります。皆様方には厚く御礼申し上げます。

新入生61名の皆さん、入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんの入学を祝福すると共に、心から歓迎いたします。さあ、いよいよ中学校生活が始まりました。新しい中学校の制服に身を包んだ皆さんは、とても凛々しく見えます。それは中学校生活への期待と意欲が充ち満ちていると感じからだと思います。その期待と意欲には一抹の不安もあるでしょう。多くの環境の変化にとまどうこともあるかもしれません。しかし、安心して下さい。私たちは常に皆さんを見守り、そして寄り添っています。また、上級生である二年生・三年生もきっと皆さんを親切に教え導き、手本を示してくれます。大きな希望と喜びを持って一步踏み出しましょう。

その皆さんが自ら選んだ本校は、私立学校であり、私立学校には建学の精神があります。建学の精神というのは、学校が造られた目的や理念のことですが、本校は國學院大學の付属校であり、國學院大學の建学の精神が本校の建学の精神となっています。その精神とは、「日本の文化や伝統・歴史を研究し、日本人としての良識や道徳心を養い育て、立派な日本人として生きていく」ことです。それを具体的に表したものが、「たくましく 直く 明るく さわやかに」の校訓です。本校は、これを理想の生徒像として様々な教育実践を行っていきます。ですから、皆さんが新鮮な気持ちでいる今こそ、この校訓をしっかりと胸に刻んで6年間を過ごして行って下さい。

では、入学にあたり、皆さんにこれからの学校生活において心掛けてほしいことをいくつか述べたいと思います。

皆さんは、栃木駅にある石碑を見たことがあるでしょうか。そこには、栃木市が生んだ作家山本有三先生の作品である『路傍の石』からの一節が刻まれています。「たった一人しかない自分を、たった一度しかない一生を、本当に生かさなかつたら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか」。その言葉の通り、皆さんには、自分を生かす、つまり自分の可能性を広げてほしいのです。そのためにもチャレンジ、「挑戦する」ということを特に意識してほしいと思います。本校での中学生生活は今までと比べものにならないくらい多くの挑戦の機会があります。学習活動はもちろん、文化祭や体育祭を始めとする数多くの学校行事、オーストラリアやアメリカなどへの海外研修、部活動、生徒会活動等あらゆる機会を自分自身の挑戦の場ととらえて、積極的に取り組んで行って下さい。時には、与えられるばかりではなく、自ら課題を設定し、自らそれに向かって努力していつてくれることを期待しています。皆さんには一人ひとり優れた個性があり、鍛えれば大いに伸びる可能性が秘められています。この可能性に精一杯挑戦し、今まで知らなかった自分を知り、その優れた能力を開花させて。皆さんが将来、次世代のリーダーとして世界で大いに活躍してくれる日を私たちは望んでいます。

次のお話です。以前、在校生の祖父の方からお手紙をいただいたことがあります。「先日の文化祭と体育祭を拝見させていただき、深く感動し、ペンをとりました」と始まるものでした。その中で特に印象に残った部分があります。それは「展示や演技の素晴らしさにも増して生徒の皆さんの外来者に対する挨拶、案内、説明など、にこやかに丁寧になされていて本当に気持ちよく過ごさせていただきました。また、服装なども全学年がきちんとしている姿を見て、行くたびごとに感心しております」との感想です。先ほどから話してきた力、学力なども豊かな人間性を身に

つけてこそそのものです。何事に対しても全力で取り組む姿勢や他者への思いやりの気持ち、互いに助け合う心、きちんと挨拶ができるというような人としての基本をまずは、しっかりと身に付けて下さい。つまり、「人として当たり前のことを当たり前にできる」、それこそが、國學院大學栃木中学校の生徒であることの証であり、本校の最も誇りとすることの一つなのです。

さて、皆さんは、コロナ禍という大きな困難を乗り越えて今日という日を迎えました。昨年度3月から数か月間の休校を余儀なくされ、その間、皆さんは登校どころか外出も制限、学校が再開しても、感染予防に努めながらの授業、常に不安を抱え、緊張の日々を送ってきたことと思います。また、楽しみにしていた数々の学校行事や各種大会も縮小や中止となったことでしょう。肩を落としたことも何度かあったと思います。しかし、その中で、皆さんは困難に負けることなく、今日までよく頑張り、さらには自ら選択した中学入試という試練も突破してきました。本当に大したものです。

ところで、皆さんの先輩は、この一年間の感想を次のように作文に書いています。「コロナ禍がなければ、このような学校生活にはなっていなかったのだなとつくづく思います。たくさんの行事がなくなってしまったり、今までにはなかった緊張感の中で、思い通りには過ごせなかった一年間でした。本来はもっと色々なことができたはずだと思うと悔しい気持ちがありますが、インターネットで先生方の授業を受け、ずっとつながっていたり、感染防止を考えながら、企画立案した研修旅行やレクリエーションのように、私たちなりにできることを探して実践できたあの経験は、そう簡単には得られるものではないと思います。普通の生活ができること、学校で学べること、そして友だちがいることの大切さなどを再確認し、逆に学ぶことがたくさんあったと思うと、とても充実した一年間だったと思います」。

これからも感染予防に細心の注意を払った生活を送る必要があります。しかし、先輩の作文にあったように、皆さんの姿勢、考え方、知恵、人とのつながり方でいくらでも学校生活は楽しいものになるはずです。皆さんにとってさらに明るい未来が必ず待っています。中庭には初代高等学校長 佐々木周二先生の像がありますが、先生は「人は困難を乗り越えてこそ強くなる。困難は人を強くするためにある」とおっしゃっていました。本校での様々な活動を通して逆境を克服する力、マイナスをプラスに変える力をさらに養って下さい。それも次世代のリーダーになるための大切な資質です。

最後になりましたが、ご父母の皆様にはひと言ご挨拶申し上げます。本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。皆様のお喜びもさぞかしと拝察いたします。私たち教職員一同は、お引き受けした一人ひとりを大切に、その持てる可能性を最大限に伸ばす教育活動を推進いたします。そして、6年後には全員が、「國學院栃木で学べて良かった」と心から思えるような学校づくりに努力して参る所存です。どうか、ご父母の皆様には、本校の教育に対するご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さあ、皆さんは、今、國學院栃木の生徒としての第一歩を踏み出しました。これから心と頭と体を鍛え、これからの土台をしっかりと築いて下さい。皆さんの学校生活が、実り多く豊かなものになることを心から願い、式辞といたします。

令和3年4月6日

國學院大學栃木中学校

校長 青木一男

放課後、自主的に教室や学園教育センターで熱心に学習する姿がよく見られます。部活動でも、大会で上位に入賞する人はもとより、高校生に交じって生き活きと活動し、文化祭では立派な発表を行っていた人もいます。特に、文化祭・体育祭においては、上級生が率先して仕事や練習に取り組み、後輩たちを指導するなど、リーダーシップを発揮しています。また、自然体験学習での登山では、雨の中でもさえも愚痴を言うことなく、その状況さえ楽しんでます。そして、集大成となるオーストラリア・ホームステイ語学研修では、自信を持って現地の人たちと交流し、向こうの良さを吸収すると共に日本の良さを伝えています。